

一生涯を通した歯科保健対策の確立をめざして〔7〕

歯科衛生士による小中学校の巡回歯科保健指導(2)

社団法人富岡甘楽歯科医師会 歯科衛生士

○ 杉山早苗 入山久美子 松本裕美

山田一江* 村上裕美* 平塚貴恵*

*在宅歯科衛生士

1. はじめに

富岡甘楽歯科医師会は、平成4年に富岡甘楽口腔保健センターを開設し、地域の歯科保健の充実をめざしています。富岡甘楽歯科医師会では、8020運動の目標を達成するために、平成5年に公衆衛生活動の目標を具体化した『各ライフステージにおける歯科保健対策』を立案し、一生涯を通した歯科保健システムの確立をめざしてきました。

今回は、その一環として実施されている「歯科衛生士による小中学校の巡回歯科保健指導」について紹介します。

2. 小中学校における巡回歯科保健指導の目的

①一生自分の歯で食べるために、8020の実現をめざして

永久歯列が完成する学齢期に児童生徒が口腔内の健康を維持向上する力を習得することができれば、「一生自分の歯で食べる」ことにつながります。そのためには、発育段階に合わせた歯科保健指導を繰り返し実施することが大切です。

②むし歯予防対策

管内の全市町村で、乳幼児健診時より、フッ化物の利用、甘味指導、ブラッシング指導等を組み合わせた、むし歯予防対策を実施しており、就学前のむし歯罹患状況は大幅に改善しましたが、学齢期になるとむし歯罹患率が上がってきます。このため引き続き、フッ化物の利用、甘味指導、ブラッシング指導等をむし歯予防対策として継続していく必要があります。

③歯周疾患予防対策

小学生高学年になると歯肉炎の児童が増えてきます。歯肉炎予防にはブラッシングが大切です。正しいブラッシング方法習得や歯周組織について知ることにより、児童生徒たちに増加している歯肉炎の予防や改善を図ることができます。また将来の歯周炎予防にもつながります。

3. 巡回歯科保健指導の経過

管内市町村の小中学校において、年一回の歯科衛生士による巡回歯科保健指導が実施されています。小中学校巡回歯科保健指導は、平成4年度に甘楽町で全学年の指導が予算化され、その後、平成5年度に下仁田町、平成6年度に妙義町、平成7年度に南牧村、平成9年度に富岡市(小学校1・5年)と順次予算化されました。しかし、下仁田町は平成11年度から、富岡市では平成12年度から実施しておりません。平成13年度の実施状況は、小学校8校、中学校5校で歯科保健指導が実施され、指導を受けた生徒は1948名で、歯科衛生士の延べ人数は58名です。

平成13年度 小・中学校巡回歯科保健指導報告

市町村名	実日数	実施校				合計	歯科衛生士 延人数
		小学校		中学校			
富岡市	0	0	0	0	0	0	0
妙義町	2日	2校	273名	0	0	273名	8名
南牧村	4日	2校	85名	2校	86名	171名	8名
下仁田町	0	0	0	0	0	0	0
甘楽町	12日	4校	958名	3校	546名	1504名	42名
合計	18日	8校	1316名	5校	632名	1948名	58名

4. 歯科保健指導内容

歯科保健指導は1授業時間を使用し、前半が講話で、後半がブラッシング指導となります。当会では、文部省の「小学校・歯の保健指導の手引き」を参考に、平成10年度に各学年別指導指針を作成しました。その後、平成13年度に「健康日本21」を参考に一部改定し、今年度からは「元気県ぐんま21」の指標も取り入れています。このように指導指針に沿って歯科保健指導を行うことにより、児童生徒の発育や成長に合わせた、きめ細かい指導が実施できます。

評価指標と目標値

評価目標	元気県ぐんま21		健康日本21	
	現状	平成22年	現状	平成22年
12歳で一人平均むし歯数	2.9本	1歯以下	2.9本	1歯以下
フッ化物配合歯磨剤の使用者	—	90%以上	45.6%	90%以上
フッ化物洗口を利用している人の割合	—	50%以上	—	—
過去1年に個別歯口清掃指導を受けた人の割合	—	30%以上	12.8%	30%以上

小・中学校巡回歯科保健指導指針

(社)富岡甘楽歯科医師会

全学年共通する指導内容は「むし歯予防には、従来の方法に加えて歯質強化(フッ素利用)が大切であること。歯肉炎予防に関してはブラッシングが大切であること」で、各学年を通して繰り返し指導しています。

また、主な学年別指導ポイントは、小学1年生は6歳臼歯の位置や特徴について、小学2年生は位相差顕微鏡を使い歯垢の観察と歯質強化について、小学3年生は10%砂糖水を作り、試飲して、飲料に含まれる糖分について学び、小学4年生は唾液の働きとして抗菌作用、歯の保護作用、などを簡潔に分かりやすく説明します。小学5年生では再び位相差顕微鏡での歯垢観察と歯肉炎の原因や予防について、小学6年生は第二大臼歯の確認とフッ素入り歯磨剤によるダブルブラッシングを実践しています。

このように、小学4年生までは、主にむし歯予防に重点を置き、小学5年生からは、むし歯と歯周疾患の二大疾患対策になります。また清掃補助用具の糸ようじの実習が小学5年生から加わります。中学生では小学校での指導内容に加えて8020を達成するために自分の歯と口腔機能すべてが大切であることや、噛むことの8大効用を取り入れ、より具体的に話します。中学校卒業後、歯科保健指導を受ける機会がない生徒もいるので、将来のことも踏まえた指導内容にしています。このように、口腔保健全般にわたって、成長発達に沿って特徴を活かした歯科指導を行っています。

巡回歯科保健指導の実施後に、より指導が必要な児童生徒に対して、養護教諭と連絡を取り、お昼休みや放課後を利用して保健室で歯科指導を行っています。また毎年、歯科衛生士は反省会を開き、さらに充実した指導ができるように努めています。また必要に応じて、養護教諭、市町村担当課、歯科医師、歯科衛生士での話し合いを行っています。

5. 今後の課題

富岡甘楽歯科医師会では、各ライフステージにおける歯科保健の充実を目指してきましたが、学齢期においては、未だ不十分と思われます。むし歯や歯周疾患をはじめとした、口腔保健を知る上で歯科保健指導は、多感な学齢期における健康教育の一つとして大切なことと思います。しかし、歯科衛生士による巡回歯科指導を実施していない市町村があるため、各市町村の学齢期における歯科保健の格差があるようにと思われます。今後は歯科衛生士による巡回歯科保健指導を実施していない市町村に働きかけるとともに地域、行政、学校、歯科専門職が連携を取り、個々の役割を尊重した歯科保健対策を進めていくことが必要です。

主題

むし歯予防・歯肉炎予防の取り組みとして巡回保健指導を位置づけて歯や口の中の病気を知り、口の中の健康状態を理解し、むし歯予防には従来の方法に加えて歯質強化(フッ素利用)が大切であること、歯肉炎に関してはブラッシングが大切であることを習得させる。以上のことが各学年をとおして繰り返し指導していくことが最も重要である。

主目標	学年	学年別講話目標	学年別実習目標
むし歯予防	小1年	永久歯の確認 6歳臼歯の大切さ	つつこみ磨き
	小2年	永久歯の確認 歯質の強化(フッ化物)	前歯の立て磨き 細菌の観察(マイクロスコープ)
	小3年	混合歯列期の特徴を知る 甘味について	1本づつ磨く 砂糖の実験
	小4年	混合歯列期の特徴を知る 唾液のはたらき*	完全磨き
むし歯・歯肉炎予防	小5年	歯肉炎について 二大疾患について	糸ようじの実習 細菌の観察(マイクロスコープ)
	小6年	永久歯列の完成 12歳臼歯の確認 歯磨き剤について*	糸ようじの実習 デンタルフロスの紹介 ダブルブラッシング*
	中学生	8020に向けて一生自分の歯で食べるために 歯磨き剤について* 噛むことの大切さ(8大効用)*	デンタルフロスの実習 ダブルブラッシング*

(*平成13年度より実施)

唾液のはたらき(小4年生向け)

- ・ 口の中を清潔にする
- ・ 消化をたすける
- ・ 歯をまもる
- ・ 口の中をなめらかにする

「よく噛む」8大効用

- ひ 肥満防止
 - み 味覚の発達
 - こ 言葉の発音はつきり
 - の 脳の発達
 - は 歯の病気予防
 - が ガン予防
 - い 胃腸快調
 - ぜ 全力投球
- (噛みこたえ早見表より引用)

平成12年度歯科保健調査結果

一人平均う歯数

	小 学 校					
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
富岡市	0.13	0.47	0.63	1.25	1.65	2.11
甘楽郡	0.07	0.22	0.38	0.72	0.90	1.74
県平均	0.16	0.47	0.84	1.22	1.60	2.07

	中 学 校		
	1年生	2年生	3年生
富岡市	2.90	4.03	4.63
甘楽郡	2.20	3.40	4.53
県平均	2.88	3.54	4.37